



甲府中学・甲府一高同窓会会報

Boys be Ambitious!

札幌農学校物産科教授
クラーク博士の訓辞を録し
母校甲府中学の生徒諸君
に贈る
昭和二十二年 港山

旧校舎 昭和3年 竣工

創立130周年に向けて

山梨県立甲府第一高等学校 竣工 平成5年11月



昭和18年：強行遠足に参加する甲府中学生



平成20年：強行遠足に参加する甲府一高生



甲府中学・甲府一高同窓会 会長 望月 政男（昭34年卒）

甲府中学・甲府一高を卒業した同窓生2万余名の皆様、お元気で各界・各地でご活躍のこととお慶び申し上げます。

母校は、同窓会が強く求めている県下どこからでも入学できる「全県一区」に変わり3年目を迎えました。

明年の2010年10月には創立130周年を迎えます。これを契機に学校と協力して、日本の将来を託す「個性と魅力」をもった人材を育てるために同窓会が少しでもお役に立ちたいと考えております。

母校の一番の「魅力」「誇り」は、130年の古い歴史と伝統、その間に、有為な人材を多数輩出し、今各界・各地でご活躍している多勢の会員を有している「甲府中学・甲府一高同窓会」であります。

この同窓会会員を結ぶ絆として、このたび同窓会会報「Boys be ambitious!」を発刊し2万余名に配布いたします。ホームページも立ち上げ会員同志の情報の場を提供したいと思います。

皆様方のご活躍とご健勝を祈念し、同窓会へのご協力を心からお願い申し上げます。



山梨県立甲府第一高等学校 校長 新津 元（昭42年卒）

同窓会の皆様には、平素から母校に対し温かいご支援とご協力をお寄せいただきありがとうございます。創立130周年を間近に控え、本校は県内随一の伝統校として質実剛健の校風を引き継ぎつつ新しい時代にふさわしい魅力ある学校として前進して参りたいと思います。どうぞ、皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

母校報告

全人教育を目指す

甲府一高は、平成19年度より総合選抜制度が廃止され、全県一学区の単独選抜となりました。県下全域より一高の校風に憧れる生徒たちが集い、一高は今活気に満ち溢れています。今後も、次代を担う生徒たちが、豊かな人間性と創造性を備えた人間となれるよう努力して参ります。

■課程 全日制 普通科・英語科

■教員数 56名

■生徒数 836名

■特色ある教育課程

一日の時間割は、55分6校時を実施しています。数学、英語で習熟度別学習を取り入れ、多くの授業で少人数学習を実施しています。

■普通科・・・特進クラスを新設

平成19年度より普通科に特進クラスを設置しました。特進クラスでは、独自の教育課程を編成して英語科に匹敵する進学実績をめざしています。

■英語科・・・県内トップレベルの集団

英語科は、豊かな教養と優れたコミュニケーション能力を持ち、広く国際社会に貢献できる人材の育成を目指して設置されました。県内外から高い評価を得ており、高い進学実績を誇っています。

■国際交流

平成17年、ヘンリー高校（オーストラリア）と姉妹校締

結を行いました。これより、毎年3月に海外短期研修が行われています。

■一高祭

平成20年度は、7月4日・5日の二日間行われました。一日目は、文化ホールで文化部発表とクラス合唱等が、二日目には展示や出店などの催しが行われ、多くの方々が来校されました。

■研修旅行

長らく「広島・京都方面」が中心でしたが、平成20年度より「沖縄」へとコース変更をしました。



姉妹校ヘンリー高校（豪）との交流

山梨県高等学校総合体育大会での主な結果（平成20年5月）

- アーチェリー 男子団体1位 個人：塚原昌史1位、平賀浩太2位
女子団体1位
個人：若尾日香里1位、岡田真季2位、角田まほ莉3位
※団体・個人ともに関東大会出場
- 陸上 男子走り幅跳び：常盤春輝1位（大会タイ記録）
三段跳び：常盤春輝1位 ハンマー投げ：渡辺岬3位
三千MSC：杉山健司3位
- 水泳 男子：雨宮司 五十M自由形1位、百M自由形1位
森本裕司 百M平泳ぎ1位、二百M平泳ぎ1位
- 山岳 男子3位 ※関東大会出場
- バドミントン 男子ベスト8
- 空手道 男子個人形：深沢竹蔵2位、壬生朋宏4位
※ともに関東大会出場
- テニス 男子団体3位
個人シングルス：橋爪玲2位
※関東大会・インターハイ出場
個人ダブルス：秋山裕一郎・米山昂宏2位
堀内貴仁・橋爪玲3位
女子団体ベスト8



沖縄旅行



めざせ甲子園

山梨県高等学校総合芸術文化祭での主な結果（平成20年11月）

- 演劇部 芸術文化祭賞 1位 ※関東大会出場
- 茶道部 芸術文化祭賞 1位
- 吹奏楽部 優秀賞（9年連続）※西関東大会（銅賞）
- 音楽部 芸術文化祭賞 1位 ※関東大会出場
- 写真部 芸術文化祭賞 1位 ※全国大会出場

生徒会組織

生徒自治会本部 応援団吹奏楽部 応援団 放送部 新聞部 陸上部 水泳部 山岳部 テニス部 野球部 卓球部 サッカー部 バレーボール部 ラグビー部 バスケットボール部 ハンドボール部 スキー部 スケート部 バドミントン部 柔道部 剣道部 空手部 ソフトテニス部 弓道部 アーチェリー部 文学部 映画部 化学部 音楽部 美術部 写真部 園芸部 演劇部 天文部 書道部 落語研究部 生物部 家庭部 茶道部 箏曲部 フォークロック部 HiY部 将棋部 英語研究部 クイズ研究部 電気物理部 インターアクト同好会 討論同好会 イラスト研究同好会 ダンス同好会 ゴルフ同好会

過去3年間の大学進学先

■国公立大

北海道 北海道教育 東北 山形 筑波 筑波技術 埼玉 千葉 東京海洋 お茶の水女子 電気通信 東京 東京医科歯科 東京外国語 東京学芸 東京芸術 東京工業 東京農工 一橋 横浜国立 上越教育 新潟 金沢 富山 山梨 信州 静岡 浜松医科 名古屋 京都 大阪 奈良女子 島根 高知 高崎経済 埼玉県立 首都大東京 横浜市立 山梨県立 都留文科 静岡県立 大阪市立 高知女子
国公立大合計 220名

■私立大

城西 東京国際 獨協 文教 日本薬科 神田外語 淑徳 城西国際 千葉工業 千葉商 中央学院 青山学院 亜細亜 大妻女子 桜美林 学習院 北里 共立女子 共立薬科 杏林 国立音楽 慶応義塾 工学院 國學院 国際基督教 国士館 駒沢 駒沢女子 実践女子 芝浦工業 上智 昭和女子 昭和薬科 女子栄養 成蹊 成城 聖心女子 専修 創価 大正 大東文化 拓殖 多摩 玉川 中央 津田塾 帝京 東海 東京音学 東京家政 東京経済 東京工科 東京女子 東京電機 東京農業 東京薬科 東京理科 東洋 二松学舎 日本 日本医科 日本女子 日本体育 法政 武蔵 武蔵工業 武蔵野 武蔵野美術 明治 明治学院 明治薬科 明星 立教 立正 早稲田 東京純心女子 神奈川 神奈川工科 神奈川歯科 鎌倉女子 関東学院 湘南工科 相模女子 鶴見 東京工芸 フェリス女子 横浜商科 帝京科学 山梨学院 山梨英和 健康科学 新潟工科 新潟医療福祉 長野 諏訪東京理科 金沢医 金沢工 常葉学園 静岡理工科 愛知学泉 中京 中部 日本福祉 京都外国語 京都女子 同志社 同志社女子 立命館 龍谷 大阪芸術 関西 関西外語 近畿
私立大合計 980名

第82回強行遠足



強行遠足ゴール

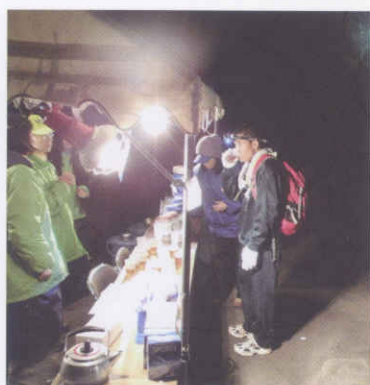
10月4日（土）～5日（日）に、第82回強行遠足が行われました。平成14年に死傷交通事故が起きたため短縮されてきましたが、今年度より、男子は距離を延長して、一高から小海まで75.3kmを歩きました。女子は昨年度と同じく、須玉から野辺山まで30.3kmを歩きました。

4日午後10時、男子403人は、OBらが校歌や応援歌を歌う中、長野県小海町を目指して出発。5日の朝7時半には、女子364人が須玉小学校を元気良く出発しました。救護給水や交通指導など、700名以上の保護者やOB（昭和50・51・52年卒・平成6年卒）の方々に協力していただきました。

7日（火）に終了宣言が行われ、強行遠足は無事終了しました。完走率は、男子44%、女子99%でした。頑張り抜いた充実感に、涙を流す生徒が多かった大会でした。

■北海道北見北斗高校との交流

平成4年より三年に一度、両校の代表生徒数名が互いの強行遠足に参加するという交流が始まり、現在も続いています。北海道北見北斗高校では、男子72km、女子42kmの強行遠足を行っています。平成21年度は、一高が北海道北見北斗高校に訪問する年となっています。



大泉



中田



須玉

中山 正徳（3年6組）

今年の強行遠足は、3年間の中でこれまでとは異なるものだった。それは、距離が延長され夜間歩行が実施されたからだ。今までは朝早くにスタートし、その日の昼に野辺山到着だった。しかし、今年からは夜間歩行のため、睡眠をとる時間がないのだ。未知の世界だった。寒さに震え、睡魔に襲われることになった。歩いている際に何度やめたいと思ったことか。暗闇の中で、寒さに震え孤独に怯える中でも、「ここでやめたら負け犬だぞ」と言ってくれる仲間がいつも隣にいてくれた。一見けなしているようだが、友人の優しい励ましでもあった。その言葉に胸を打たれ、野辺山まで到着し、次の市場まで歩み続けることができたのだ。

今回の強行遠足は、「友情」、「気力」、「限界」、「自然」この4つの言葉を再確認する形で幕を閉じた。今回の歩行が、今後の人生に大きくつながることは言うまでもない。人生のスタート地点に立ったような気がした。

道徳を正しく学び、一高生としての誇りを大切に。



（株）サンリオ 代表取締役社長
辻 信太郎（昭20年卒）

ハローキティをはじめとする数々の人気キャラクターを擁し、サンリオピューロランドなどのテーマパークや映画、出版など幅広い事業を展開する企業を一代で築き上げた辻信太郎氏は、甲府中学・甲府一高の同窓生です。現在も社長として手腕を奮っている辻氏に、その経営哲学や母校一高への思いなどについてお聞きしました。

■サンリオの社長として、経営者として、心掛けていることや大切にしていることはどんなことでしょうか。

子どもたちの思いやりの心や道徳を育てていきたいという思いを持っている会社ですから、創業以来、法律の遵守は絶対です。企業として、人として、法律を守ることはあたり前ですが、それがなされていないのが今の世の中です。そして経営者として、いかなる場合も責任を持って取り組んでいます。正社員、契約社員合わせて2,000人の社員全員に対する責任はとても大きなものです。何よりもまず社員、そして会社です。たとえ自らの立場がなくなっても、迷わず自分を切り捨てる。経営者には、それほどの責任と覚悟が必要だと思います。

ボーイズビーアンビシャス



第14代新潟大学 学長
下條 文武（昭37年卒）

新潟大学医学部卒業後、内科臨床医と腎臓病研究に携わりながら、医学博士、大学病院長を経て、現在学長という重責を担っておられる下條さんにお話を伺いました。

■高校時代を振り返ると、どのような事が思い出深いことでしたか。
一高時代の最も印象に残っていることは、三年生の時に選択した生物の遠藤文康先生。先生の授業は実に興味深くわかりやすく、「生物学の面白さ」に魅せられました。これが医学部に進む大きな要因となり、医師になるだけでなく研究者への強い憧れもこの時に生まれました。

また、当時の生徒会では、政治問題から高校の運営のことまで盛んに議論されていて、入学した時にこれぞ甲府一高なのか、と驚かされました。そういうディベートを率先してやっていた先輩

■現役高校生をはじめ、今の子どもたちについて、どう感じていますか。

今の世の中は道徳や規律といったものが、失われてしまっています。そういう中で大切なのは、やはり教育です。もう一度、道徳を正しく学ぶことが必要だと思います。やはり人は道徳を学ぶからこそ人であり、それをきちんと教えることが教育だと思います。次代を担っていく子どもたちには、しっかりと道徳を学んでほしいですね。

■今、一高は全県一学区制となり、学校間の競争も激化することだと思います。一高は新たな道を切り拓くためにどうすべきか、在校生にアドバイスをお願いします。

私が通っていた頃の甲府中学は、とても誇り高い学校でした。生徒にも先生方にもいい意味でのプライドがありました。プライドというものは人間にとって重要なものです。それは自然に生まれてくるものでもあります。みんなでつくっていくものでもあります。歴史ある一高は多くの立派な人を輩出しているということをはじめ、これからスポーツや勉学で名門校を目指すとか、どんな形でも誇りを持つことが大切だと思います。校長先生をはじめ教師や生徒、学校にいる人みんなが集まって一高の目指すべき姿を定めることがいいと思います。一高生みんなが誇りと責任を持って頑張っていくんだ、世界に向けて羽ばたいていくんだという気持ちになってくれる事を期待しています。ぜひ頑張ってください。

が現役で東大、京大にはいていました。野球も私が二年生の時だったと記憶しておりますが甲子園行きが決定。花形だった応援団を中心に全校で応援に行ったのも印象深い。また、先生からはことあるごとに「ボーイズビーアンビシャス」と叩き込まれ、実に多彩な周りの人々を見て一高精神を学びました。このことは私のその後の生き方にかなり影響していると思っています。

■新潟大受験日の驚き

新潟大学受験の朝会場に行くと「甲府一高がんばれ」というでっかい幕がかけられていました。「どうして新潟に甲府一高!?」。これをやってくれたのは太田道夫先生率いる新潟大の山梨県人会。心強い思いの中で受験する事ができました。入学後もすぐに声をかけられ嬉しかったですね。この県人会は今でもずっと続いています。

■一高在校生に向けてアドバイスをお願いします。

これからますます世界がグローバル化していくなかで、甲府一高からハーバードやケンブリッジ大学など日本の大学を飛び超えて行くような時代も近いのではないかと。昔、私らが一高で教えられたのと同じように、夢を持って大志を抱いて世界にはばたいてほしいと願っています。

固定観念にとらわれることなく世の中の流れに対応できる柔軟性を！



財務省 財務官
篠原 尚之（昭46年卒）

篠原さんは、1975年に大蔵省（現・財務省）に入省以来、主計局や国際局、国際協力銀行など、その輝かしい実績とともに2007年7月、財務官に就任。外国との交渉を統括する重要ポストとして手腕を振っています。

■高校時代を振り返ると、どのような事が思い出深いことでしたか。

私は、総合選抜2校制が取り入れられた最初の年に入学しました。ちょうど端境期だったため、上級生とはなんとなく違う雰囲気を感じました。当時は、古い一高のパンカラな感じが非常に残っていて、集団生活の中で規律に従ってきた中学時代から一転、もうちょっと大人に振る舞わなければいけないと思ったものです（笑）。一高に

ついて一番の思い出は、やっぱり強行遠足ですね。沿道で出していただしじみ汁やおにぎりのおいしさは今でも忘れられません。電車で甲府駅に着いて、足を引きずりながらタクシーに乗ると運転手さんが料金を取りませんでした。地域全体のお祭りのような感じで、皆さんにあたたかく見守られ支援されていたのです。

高校時代は、一生懸命の中ではほんのわずかな時間ですが、今でも気さくに連絡を取り合える友人を得ることができました。高校時代の友人は人生において本当に大切な財産だと思っています。

■一高在校生に向けてアドバイスをお願いします。

卒業してから30年以上たちますが、世の中はもの凄く変わりました。これからはもっともっと流動的になっていくでしょう。だから今ある世の中の固定観念にできるだけとらわれずに、社会の大きな流れに対応できるような柔軟性がないと生きていく上で大変だと思います。一高生には、周りの人が言っているから正しいとか周囲の価値観にとらわれず、自分で考え判断できる力を今から養っていくことをおすすめします。

復活OB強行遠足

一高生なら皆、強行遠足への特別の思いがある。集まると必ず、苦労した事も皆、楽しく語りだす。一番の思い出だ。父親に草鞋のメダルを見せてもらった、子供の頃。トップを目指した高校時代。一年生の望月達史氏（元内閣審議官）と一位でゴールしたOB時。OB強行遠足を復活して4年、3～40人で始まり、今回は百人余でゴールを目指した。学校から30キロ、オオムラサキセンターまで。体力に合わせて、一緒に歩きませんか。

42年卒
内藤 泰蔵



演劇部5年ぶり復活

去る11月19日、演劇部OBである谷口氏、長田氏とOGである三間氏が学校を訪れ演劇部の後輩に活動助成金を贈呈しました。名門一高演劇部もここ数年は、部員不足のため休部状態でした。



今年6月に新任で高校演劇の指導者として実績のある砂澤雄一教諭を顧問にむかえて有志4人で復活。9月には文学館講堂で復活公演を果たしました。11月の県大会で最優秀賞を受賞し県代表に選ばれるまで復調しました。19日の贈呈式では現部長の芦沢さん（英語科・2年）と先輩達が談笑し、演劇部の発展と関東大会での活躍を期待する声かけられました。

山紫会（昭和34年卒）

第6回研修（修学）旅行の記

2005年の還暦を機に始まった研修（修学）旅行も今年で6回を数える。

今回は、名古屋、常滑、岡崎、西浦温泉、三ヶ日と、東海地方へ徳川の文化などを訪ねる旅となった。参加メンバーは、県内はもとより東京、桶川、茅野、宇治、小千谷の各地から集まった女性11、男性15の計26名である。この研修旅行で、68歳を迎えた元同級生は一段と教養を深め、楽しかった「修学旅行」は終わった。

甲府一高山紫会 雨宮 秀



46会

私たち昭和46年卒業生は、総合選抜一期生です。

30代の当番学年（サブ幹事）時に、「甲一46会」を作り以後24年間維持しています。

年会費制・年次総会、事務局・事業部・女性部があり独自の投稿欄付きホームページもあります。

長年に亘り会を維持できたのは、政治と宗教と仕事を持ち込まないことを不文律によっちゃばっているからかも知れません。

ところで、平成21年は東京同窓会の当番幹事です。よろしくお願いします。

甲一46会 会長 古屋 裕一



OB WANTED!

多士済々の同窓の皆様、
お名乗りください。

現役の生徒にこんな指導ができる（文化、芸術、科学、スポーツ等）、こんな講話、講義ができる（したい）というお申し出をお願いします。お申し出の内容については母校側と連絡・調整をとりつつ、学校では体験の難しい、第一線で活躍する同窓生ならではのホットな刺激と直接のコミュニケーションを生徒に提供するのがねらいです。同窓会事務局までご連絡ください。電話：055-253-3525

祝 褒章受章 (秋の叙勲受賞)

東京同窓会前会長の恩田宗氏（昭和27年卒：元在タイ国大使）と、現会長の井上幸彦氏（昭和31年卒：元警視總監）が平成20年度秋、同時に栄えある瑞宝重光章を受賞されました。

お二人がそれぞれの道で一筋に歩まれた功績が評価されましたことは、現役生徒にとっては良き模範となり、同窓会としましても誠に誇らしく喜ばしい限りであります。

両氏に心からお祝いを申し上げ、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



恩田 宗氏



井上幸彦氏

Information

母校にゆかりの資料を集めています

創立130周年を記念して、校舎に隣接した日新館のホワイエに、「資料館コーナー」を設置する計画があります。

同窓会が百周年記念館に保有する母校の歴史や著名同窓生の業績などの資料に加え、同窓生の皆様がお持ちの母校にゆかりの資料（例えば、校友会誌、生徒会誌、部誌、写真、新聞の切り抜き、著書、作品、記念品など）も展示し、現役生徒や同窓生が見学できるようにしたいと考えています。

このコーナーでは展示と同時に資料保管も行っています。ぜひお手持ちの資料で展示保管を希望するものがありましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

電話：055-253-3525

甲府中学・甲府一高同窓会 公式ホームページ設置

ありそうでなかった「甲府中学・甲府一高同窓会の公式ホームページ」が立ち上がりました。

同窓会員相互の情報交換や連絡の道具としてお使い下さい。

この公式ホームページ・アドレスは下記の通りです。

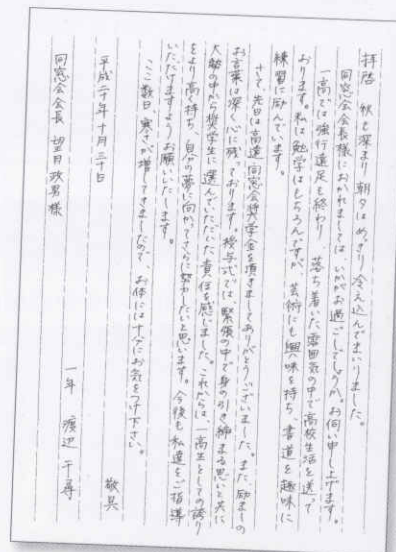
<http://www.kofu-ichiko-dosokai.jp>

同窓会奨学金 9名の生徒に授与



10月29日、同窓会奨学金授与式が行われ、選抜された各学年3名計9名の生徒に奨学金が贈られました。奨学生となった生徒諸君の席上での緊張の中にも誇りと喜びに満ちた面持ちに、出席した同窓会役員一同大いに感動しました。

同奨学金は昭和41年第19代校長高遠啓一先生の篤志にはじまり、共鳴した同窓会員の募金が加わりました。昭和51年から同窓会も奨学金事業を開始、10年前に創立120周年事業で資金が大幅に増強され、合同して高遠・同窓会奨学金となりました。この間退職歴代校長・教職員、退任同窓会役員、PTA役員などからの寄付により資金が補強され、今日に至っています。本年まで43年間に243名の生徒に総額2004万円の奨学金が支給されています。



日新会ゴルフコンペ

今年も平成20年10月30日、秋の好天に恵まれた甲府一高同窓会による楽しいコンペが、相武カントリー八王子で開催されました。

今回で38回目を数え、昭和26年卒の千野逸平さんから、昭和48年卒まで、総数46名が出場しました。

同窓生が学年を越えて集合する数少ないイベントです。

同期生ベスト3人のグロススコアで、学年別対抗戦をしますが、ハンディキャップを先輩が決めるため、いつも先輩学年が優勝しています。

甲州弁がとびかい、高校時代にもどる楽しいひとときです。学年別成績は、優勝 昭和28年卒、準優勝 昭和31年卒でした。

次の開催は同窓会ホームページで告知致しますので、大勢の参加をお願いします。

創立130周年記念 甲府中学・甲府一高同窓会 記念式典

平成22年10月 開催予定

第129周年 甲府中学・甲府一高同窓会

同窓会会員の皆様、今年も平成21年5月9日（土）甲府富士屋ホテルにおいて「歴史の証人～歴史を築いた一高人～そして未来へ」をテーマに同窓会が開催され、昭和52年卒・平成6年卒が主管いたします。

テーマ 「歴史の証人～歴史を築いた一高人～そして未来へ」

日時 平成21年5月9日（土）

- 講演会／午後12時50分
- 総会／午後2時10分
- 懇親会／午後3時30分

会員券が手元にない方は、下記あてにご連絡ください。
第129周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会事務局
TEL/FAX 055(225)1060
e-mail:misaki-52@blue.plala.ne.jp

詳細については 第129周年実行委員長 斉藤義一、
会員券部会部長 篠原 稔までご連絡下さい。

東京同窓会

本年平成21年の東京同窓会当番幹事は、昭和46年卒が務めます。幹事長 中嶋文夫、サブ幹事は昭和62年卒です。テーマは「**魁 接点** 50年！」

日時 平成21年7月11日（土）

- 総会／15:00～16:00
- 懇親会／16:00～18:00

場所 東京會館（千代田区丸の内3-2-1）
電話 03-3215-2111

会費 10,000円（当日受付にてお支払い下さい）

ぜひ、多くの同窓生の皆様にお越し頂きたく願っております。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.ichikou46kai.com/>

第130周年 甲府中学・甲府一高同窓会

平成22年5月8日（土）甲府富士屋ホテル 開催予定

母校の歩み

本校は寛政年間徳川幕府が甲府城南の地に設置した甲府学園所を前身とする官学徴典館を源とする。

明治13年10月 ●「中学校則」制定に基づき、23日山梨県中学校として開校

明治33年4月 ●甲府城内（現在の県庁所在地）に新校舎を建設、移転

明治39年5月 ●山梨県立甲府中学校と改称

大正13年11月 ●第1回強行遠足実施

昭和3年7月 ●現在地に新校舎を建設、移転

昭和23年4月 ●学制改革により、山梨県立甲府第一高等学校と改称

昭和25年4月 ●男女共学となる

昭和31年12月 ●石橋湛山（明治35卒）内閣総理大臣就任

昭和43年4月 ●本校、甲府南高校間の総合選抜実施

昭和55年10月 ●創立百周年記念式典挙行

平成19年3月 ●全県一区の単独選抜の高校入試実施（甲府学区総合選抜制度廃止）

平成22年10月 ●創立百三十周年記念式典挙行（予定）

同窓会事務局より

同窓会の資金は次の3つでなりたっています。

- ①当番学年の寄付金 450万円
- ②一高卒業時の同窓会入会金 150万円
- ③同窓会員年次別負担金 45万円

同窓会運営の事務経費150万円を除き、ほぼ全額は、学校運営支援費、各種記念品費、生徒会活動後援費、強行遠足支援費など母校と在学生徒への還元を目的として支出されております。

当番学年は、年々厳しくなる経済状況と卒業生の激減の中で資金調達に大変苦闘しております。

同窓会の基盤を盤石にするためには安定した資金源をもたなければなりません。

幸い母校は130年の歴史をもち、各地で活躍する2万余の有為な卒業生がおります。そうした大勢の皆様のをあわせ、同窓会を盛り上げ、将来を担う後輩を育てる方途を考えようではありませんか。

事務局長 大西 勉（昭34年卒）

編集後記

母校の創立130周年の節目に大先輩石橋湛山氏の自筆「Boys, be ambitious!」をテーマに同窓生一同の団結のもと、記念式典および寄付活動を成功裏に導ければと存じます。編集に当たり、多くの同窓生の方々にご協力戴けましたことを感謝申し上げます。併せて、会報についてのご感想が戴けましたら幸いです。

- 発行日 平成21年3月1日
- 表紙題字 昭和22年石橋湛山氏の揮毫による掲額（校長室）
- 発行元 山梨県立甲府中学・甲府第一高等学校同窓会
- 編集人 水村 勝（昭51年卒）
第129周年同窓会実行委員会（昭52年卒）
- 住所 〒400-0007 山梨県甲府市美咲2丁目13-44
- TEL 055-253-3525 ■FAX 055-253-3527
- URL <http://www.kofu-ichiko-dosokai.jp/>
- 印刷所 株式会社 タケウチ印刷（昭52年卒）